

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
佐々木卓代			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
浅川 達人		明治学院大学 社会学部 社会学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習	MJGa-130806-0	15人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

質問紙調査票の項目を作成するにあたり、まず学生各自が先行研究の文献から概念の抽出を行い、分担して質問項目を作成して精査した。夏休みにプレテストを行い、項目を再修正して調査票を完成させ、秋学期に全員で調査と回収を行った。各自分担してデータの入力を行い、最終的に一つのデータにまとめた。最終従属変数を4つ設定し各班で最終的な分析モデルを作成してSPSSを使用して分析を行い、全員で報告書執筆の分担を決め取り組んだ。質問項目作成、実査を通してのチームワークや社会性の勉強等とても良い経験になったと考える。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

家族・結婚・仕事に対する大学生意識

2. 調査の内容／概要：

父親と母親との幼少期からの親子関係、きょうだいとの関係を質問し、結婚や就職をどのように捉えているのか、性別役割意識や親役割に対する認識はどうであるのかを調査した。属性としては、本人の年齢、学年、性別、出身高校等、家族構成、父親、母親の就職状況や学歴、年収等の調査を行った。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

本調査の母集団は明治学院大学社会学部の学生である。標本数は601であり、フェイスシートの回答が揃っている465名のデータを分析に使用した。サンプリング方法は、社会学部の授業を履修している学生やゼミ生に講義時に10分程度調査時間を許可して貰って行う方法である。

4. 主な調査項目：

幼少期から現在までの父親と母親、きょうだいとのかかわりをコミュニケーション等を含めて小学生、中学生、高校生、大学に分けた質問項目。結婚、就職、性別役割意識や親役割に対する認識を測る項目、属性として、本人の年齢、学年、性別、出身高校の種類等、家族構成、父親、母親の就職状況や学歴、年収等。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

明治学院大学の学生、主に社会学部生を対象に開講している授業担当の先生にご許可を頂き、授業を履修している生徒に対して質問紙による調査を行った。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

調査時期は、2013年9～11月である。調査地は、明治学院大学白金校舎と横浜校舎である。調査員はゼミ生全員の15名である。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

調査票配布数は601でフェイスシートの回答が揃っている465名のデータ（有効回答率75.9%）を分析に使用した。男子学生が全体の37%、女子学生が全体の63%、平均年齢は20.27歳である。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

分析ソフトSPSS21.0バージョンを用いてパス解析を行った。「結婚願望」「親子関係と性別役割意識」「親子関係と親役割意識」「家族関係と親子関係満足度」を最終従属変数に設定し、影響要因の分析を行った。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

結婚願望に最も強い影響があったのは子どもを持ちたいという願望であり、伝統的性別役割意識は母親が高学歴だと低いことから再生産防止には女性の意識改革の必要性がある。親子関係満足度は幼少時からの親子の関わりが高く、本人のワークライフバランス認識度が高いほど親役割意識が高かった。

10. 報告書刊行の予定と概要：

社会調査実習報告書Vol.30 2014年3月発行。報告書の概要は、調査の背景と目的、先行研究、調査方法、4つの班に分けた分析結果と考察から成る。